

ドラッカー 現代の経営(第7回)

2021.06.28
 2019.09.02
 2019.06.10
 2018.07.25
 2017.04.01

章	(企業とは…)	
1	マネジメントの役割	企業…経済発展を支える鍵
2	マネジメントの仕事	マネジメント…企業、経営管理者、人、仕事
3	マネジメントの挑戦 (経済的な機関)	新たな産業革命…オートメーション、プロセス、AI
4	シアーズ物語	第一マーケティング、第二イノベーション、第三が出来なかった理由
5	事業とは何か	起業家的な二つの機能
6	われわれの事業は何か	
7	事業の目標	
8	明日を予測するための手法	日本の高度成長期は、巨大企業の成熟期だった。ビジネスモデルはすでにアメリカ企業によって確立されていたからひたすら成長し、大きくなることを目指せばよかったです。
9	生産の原理 (組織とガバナンス)	しかし、その状況は1980年代に大きく変わった。ところが、日本の企業や産業構造は何も変わらなかった。下請とピラミッド型の企業一家が建在であり、・・・企業のビジネスモデル全体を変えるようなものにはならなかった。
10	フォード物語	
11	自己管理による目標管理	
12	経営管理者は何をなすべきか	
13	組織の文化	
14	CEOと取締役会	
15	経営管理者の育成 (組織構造)	
16	組織の構造を選ぶ	恐ろしい七つのトレンド
17	組織の構造をつくる	(1)停滞する賃金(1973年賃金は頂点に達した)
18	小企業、大企業、成長企業 (社会的な機関)	(2)ルーティン的な仕事の自動化 (労働者の価値の低さ)
19	IBM物語	(3)グローバリゼーション (価格、品質の比較)
20	人を雇うということ	(4)金融化(人類の顔に張り付いた吸血)
21	人事管理は破綻したか	(5)政治(労働人口、33%と7%の労働配分)
22	最高の仕事のための人間組織	(6)社会の格差の拡大(労働分配率の低下)
23	最高の仕事への動機づけ	(7)生産性と賃金の格差の増大
24	経済的次元の問題	(労働分配率は低下し、企業収益は増加)
25	現場管理者	
26	専門職 (公的な機関)	
27	優れた経営管理者の要件	
28	意思決定を行うこと	
29	明日の経営管理者	
30	マネジメントの責任	

第1章 マネジメントの役割

産業革命と経済

2019.09.02

2018.07.25

情報革命と人工知能

1. 企業とは

- (1) 顧客のために成果を生み出す経済的な機関
- (2) 人を雇用、育成し、生産的な存在とするための機関
(統治能力と価値体系を持ち権限と責任の関係を規定する社会的な機関)
- (3) 社会と地域に存在するが故に公益を考えるべき公的な機関

2. マネジメントとは

- (1) 事業に命を吹き込む存在
生産資源→生産→価値
- (2) 一葉の草しか育たなかつたところに二葉の葉を育てる者
- (3) 人類の福祉に貢献する者
- (4) 物的な豊かさが人間精神の向上をもたらす
- (5) 資源を生産的なものにする者
- (6) 経済発展を支える鍵
- (7) 生産性を向上させる役割

3. マネジメントとは意思決定を行うこと

4. They asked

- (1) What needs to be done?
- (2) What is right for the enterprise?
- (3) They developed action plans
- (4) They took responsibility for decisions
- (5) They took responsibility for communicating
- (6) They were focused on opportunities rather than problems
- (7) They ran proactive meetings
- (8) They said and thought “we” rather than “I”

1. AIとは、

- (1) 人間のために自由と将来を生み出す技術
- (2) 人間を本質的な、本来的な活動とするための技術
- (3) 社会や人類の歴史に測り知れない指数関数的な効果をもたらす
- (4) 進化すれば、それは既存のものとなり更にその上に進化する

2. AIの活動とは、

- (1) 人間の活動に命を吹き込む存在
本来的でない活動の代替
- (2) 人の時間と距離の克服
- (3) 人の幸福に貢献する技術
- (4) 社会の発展を支える力
- (5) 人間活動の充実、幸福感を支える
- (6) AIは格差社会を招き、指数関数的な進歩をもたらす

3. 意思決定にはリスクが伴う

意思決定の本体は不確実性にある

AIは意思決定はできない

マネジメントは行動である

AIは行動はできない

時間が経過し、人間はAIに慣れる

そしてAIが進化し、人間は……の

くり返し

第1章 マネジメントの役割

産業革命と経済

2019.09.02

2018.07.25

情報革命と人工知能

1. 企業とは

- (1) 顧客のために成果を生み出す
経済的な機関
- (2) 人を雇用、育成し、生産的な
存在とするための機関
(統治能力と価値体系を持ち権
限と責任の関係を規定する社
会的な機関)
- (3) 社会と地域に存在するが故に
公益を考えるべき公的な機関

2. マネジメントとは

- (1) 事業に命を吹き込む存在
生産資源→生産→価値
- (2) 一葉の草しか育たなかつたと
ころに二葉の葉を育てる者
- (3) 人類の福祉に貢献する者
- (4) 物的な豊かさが人間精神の向
上をもたらす
- (5) 資源を生産的なものにする者
- (6) 経済発展を支える鍵
- (7) 生産性を向上させる役割

業界というのは一つのインフラ、
1つの艦船ではないか。それは全
体としてカウフマンのS字カーブ
を描いているのではないか。

或いは、マスコミ業界という一
つのインフラに対して、新聞社、テ
レビ局、雑誌、ラジオ等の媒体が
あるが、

マスコミ業界というものは、常に
今でも、最新であるとしても、媒
体は陳腐化してくるのではないか

少なくとも広告の媒体としては…
いや、ニュース、情報の媒体とし
ても……

第2章 マネジメントの仕事

2019.09.02

2018.07.25

2017.04.06

産業革命と経済

1. マネジメントを理解

- (1) 組織を生きた存在とするために
- (2) 経済的な成果をあげる機関
- (3) 事業をマネジメントするとは
- (4) 直感的なものではない

2. 創造的な活動としてのマネジメント

- (1) 望ましい成果を得るために行動
- (2) 機械的な存在ではない
- (3) 新しい経済を作る責任

3. 経営管理者もマネジメント

- (1) 生産的な企業を育てる
- (2) 資源の総計 < 成果の産出総計
- (3) 成長可能な資源は人的資源だけ
- (4) 生きた存在を生み出す
- (5) 部分の集合を超えた総体
- (6) 経営管理者への投資

4. 人と仕事のマネジメント

- (1) 人を資源として見る
その特性、能力、限界
- (2) 動機づけ、参画、満足
- (3) 仕事を通じて満足させる

5. 第4の次元－時間

- (1) 現在と未来という2つの時間
- (2) 目前の利益と長期的な利益
- (3) 現在と将来を満足させる
- (4) 当選するための現在と公共に対する将来の責任
- (5) 未知への挑戦、開拓は、AIへの挑戦に似ている

情報革命と人工知能

1. 人工知能の活用

- (1) 活動を生きたものにする
- (2) 満足感、達成感をあげる
- (3) 本質的なものである
- (4) 人がそれに慣れて、更に進化する

2. 創造的な活動のための AI

- (1) 機械的な存在ではない
- (2) 新しい価値を作るもの
- (3) 人間の進歩のくり返しに寄与する

3. AI の活用

- (1) 生活のレベルアップ
- (2) 経済活動のレベルアップ
創造活動のレベルアップ
創造とは知能
- (3) AI は創造可能な資源
- (4) 人間の能力の向上

4. 人と AI

- AI の後には人が居る
しかし、AI も一緒に居る
(易經の昔から)
一体的な進化が必要である

5. 企業とは変化を利するものである

- 企業家精神とは既に行っていることよりも全く新しいことを行うことに価値を見出すものである。
セイの企業家、権威に対する否定、イノベーションとはシュムペータの創造的破壊である

第2章 マネジメントの仕事

2019.09.02

2017.04.06

産業革命と経済

情報革命と人工知能

1. マネジメントを理解

- (1) 組織を生きた存在とするために
- (2) 経済的な成果をあげる機関
- (3) 事業のマネジメントとは
- (4) 直感的なものではない



産業革命が生み出した“経済”は、それ以前の経済とは全く様相が異なり、“拡大再生産”ができる経済となった。

2. 創造的な活動としてのマネジメント

- (1) 望ましい成果を得るために行動
- (2) 機械的な存在ではない
- (3) 新しい経済を作る責任

情報革命が生み出すものは？
産業革命の生んだ経済に相当するものは“何か”、
“人口知能”か、
まだよく知らないが、
“ ”であることは
確かだと思う。

筆の外れから手の外れ、
いやし、手の外れにて。？

3. 経営管理者もマネジメント

- (1) 生産的な企業を育てる
- (2) 資源の総計 < 成果の産出総計
- (3) 成長可能な資源は人的資源だけ
- (4) 生きた存在を生み出す
- (5) 部分の集合を超えた総体
- (6) 経営管理者への投資

4. 人と仕事のマネジメント

今後の社会はどうなるのだろう

将来の傾向

若年化、AI化

無店舗化

ロボット化

高齢排除

省力化

ロボット化

若年化、AI化

人の仕事

経営管理

金融、付加価値

工場労働

店舗労働

サービス

農業労働

建設

知的労働

付加価値

筆の外れから手の外れ

A I

手の外れにてを主

AI化

ロボット化

無人化

ロボット化

AI化、事務の代替

5. 企業の人間

すべて働く人間である。そしてマネジメントも独立した一つの仕事である一方、企業の人間はすべて、その仕事が何であれ、マネジメント的視点を持つことが必要である。

外の世界で起きていることを知らなければならぬ

6. 経営管理者

部門全体の成果について責任をもつ、これに対して専門職は、自らの貢献について責任を持つ。

AI 生産性向上とは、

7. 明日のトップが果たすべき 5 つの課題

(1) コーポレートガバナンスの変容

15 年後には企業統治が今日とは大きく変わる
企業の所有構造の根本的な変化

決して行ってはならないことは“問題を避ける
こと”問題を直視して改善しなければならない

情報が生産要素となる

(2) 情報への新しい取組み

情報が生産要素となる

(3) 外の世界で起きることを理解しなければならぬ

今日の組織構造は、マネジメントの階層を基本に組み立てている。それらの階層は、ほとんどが情報の中継機にすぎない。情報は伝えられるたびに内容が半減する。

AI は情報の中継者たり得るか

Next Society

(1) IT とグローバル化、好況が持続

(2) 雇用形態の変化

(3) 高齢人口増、若年人口減

(4) 正社員の変化

(5) 国内市場の激減

(6) 極度に競争的な社会

産業革命と経済

情報革命と人工 知能

8. 間違ったことをしたというのではなくて、ただしことをしていないという問題
ベンチャーなのか ギャンブルなのか
人の意見を聞こう
という態度
9. マルチブランドになることの重要性
自動車のディラー ガリバーの試行
インターネット デーラー実践
自分がいかに小さ
いかの理解
10. 予期したところに市場があったものは 10%～
15%である
予期しない 80%は無価値とチャンスである。
チャンスは一度しかない
IT 革命の後、異質の
社会が出現する。
11. 老廃物は捨てなければならない
人の体はそうしている。ところが組織では容易で
はない。しかし廃棄の効果は大きい。
情報が生産要素と
なるような社会
12. 独占は放っておいても破壊する
覇権は自滅する。
ロックフェラーにとっても最善の自体が分割で
あった。IBM
13. この 50 年は経済が主役だった
これからの 30 年は社会が主役になる
企業家精神とは、すでに行っていることをより上
手に行うことよりも、まったく新しいことを行う
ことに価値を見出すことである。
それは「セイ」の言葉の本質、権威に対する否
定の宣言であった。
イノベーションの
成否は、その新奇
性、科学性ではなく
て、市場で成功する
か否かにかかって
いる。それは科学
もスキルでもなく
実務である。

第3章マネジメントへの挑戦

産業革命と経済

1. マネジメントに要求されるもの

- (1) 分権化、柔軟性、自立性、若年化、AI化
環境への挑戦、変化への挑戦
- (2) これはプロセスに焦点を当てるということ、
技術や製品ではなくて・・・
マネジメントとはプロセスを効果的に
管理することである。
- (3) デジタル化はプロセスシステムである

2. オートメーションとは何か(新たな産業革命)

- (1) オートメーションは、仕事の組織についての概念である。従って工場生産だけでなく、流通や事務の仕事の組織化にも適用される。スイッチが膨大な富を生むわけではない。
 - ①それは概念であり、安定した一つの基本パターンが存在する
 - ②調和した一つの総体としてのプロセスである。働く人がいなくなるというわけではない
 - ③目的と手段、投入と产出のバランスを図るためのコントロールの概念である
- (5) オートメーションの要求するもの
 - ① より多くの経営管理者を必要とする
 - ② 責任と意思決定をトップに集中しようとする企業は恐竜のように亡びる
 - ③ デジタル化は、非人間的機械的部分からのより高度な挑戦と思える。
 - ④ オートメーションの機械的部分を単に肉体的部分の効率化と考え、組み入れたプロセスの調和を図り、プロセスをマネジメントすることが重要である。人間的、精神的な部分はない
 - ⑤ オートメーションの本質は技術ではない。それは一つのコンセプトである。

2019.04.06
2017.04.06

情報革命と人工知能

1. AIの活用

- (1) AIは技術である
人が働きかけて初めて価値を生む
- (2) 進化のプロセスと成果物
どうシステム化するか
→速度、効率、コストパフォーマンス、
プロセス、パワー
- (3) ムーアの法則

2. 更に新しい情報革命

- (1) AIが価値を生むのではなくて、AIを活用する人が、社会が価値を生む
- (2) AIは単なる技術ではない
それを一つのコンセプトに高めねばならない
- (3) AIの代替に要求するもの
- (4) マネジメントに要求されるものは、企業家としての創造的破壊である。

経済学の中心は何か

- (5) 経済学は、企業家を外生変数として扱い、重視しない。ケインズもマルクスもフリードマンも・・・。
- (6) シュムペータのみが、企業家を経済学と経済活動の中心に位置づけるべきとした
- (7) AIとオートメーションの違い

アリババの15年3月期の売上は762億元、18年3月期は、2502億円元、3倍の成長、AIというのはそういうもの

産業革命と経済

3. オートメーションはプロセスであり、それを理解し、組織的に適用する国がリーダー的な地位に立つことは疑う余地がない。

- (1) 20世紀前半、大量生産を理解し、適用し、マネジメントすることによって世界のリーダー的地位を得たアメリカ、過去に有効であったものは、今変質している
- (2) 今後は、オートメーションを理解し、それをプロセスとして適用する国が、その生産性と富において世界のリーダー的地位に立つ。
- (3) 情報革命は、更にその先の過程か
オートメーション＝デジタル化…プロセス進歩、発展というのはプロセス化なのか

4. オートメーションと人間

- (1) 新しい技術は、更に別の技術をもつ。教育を受けた、より多くの人間を必要とする
- (2) 大量生産は人から仕事を奪わない
- (3) 技術の変化は人の労働を余剰としない

5. マネジメントに要求されるもの

- (1) これまで以上に経営管理者が必要である
- (2) 責任能力、ビジョン、リスク選択、経営知識人のマネジメントが増大していく
- (3) 意思決定を中央集権化しようとする企業は亡びる
- (4) オートメーションは、一挙にではなく、徐々に確実にやってくる
- (5) イノベーションが必然である、イノベーションの機会がすでに存在する分野において、資源の最適化にとどまることほどリスクの大きなことはない。論理的にいって、企業家精神こそ最もリスクが小さい。

情報革命と人工知能

- ^{・オートメーション(省力化)であり、}
3. AIはプロセスの中の一部である

- (1) AIをプロセスの中に取り込まなければならない
- (2) AIとその本質を理解しなければならない
- (3) 現在のAIの先を常に考え、見る

4. AIの活用と人

(表面)	(裏面)
AIを活用する人	AIのプログラマーを作る人
AIの生み出す	経済社会
AIのためのXA	^{AIの省力化、省人化}

5. 人に要求されるもの

企業家は、変化を当然かつ健全なものとする。変化を探し、変化に対応し、変化を機会として利用する。

企業家は生産性が低く、成果の乏しい分野から、生産性が高い成果の大きい分野に資源を動かす。そこには成功しないかもしれないというリスクはある。

AIは決して革新的な資源ではござりません

→

第4章 シアーズ物語

→

産業革命と経済

2019.09.02
2017.04.06
情報革命と
人工知能

- 事業のマネジメントとは何か、事業のマネジメントには何が必要か、— 変化を見つけそれに対応することである。
(事業は顧客の創造である) …事業の目的
事業のマネジメントは何が原因で変化するか

過去にあったものが
変質している

人は、変化に慣れ

- 農民の孤立した市場の理解と認識
— 新しい流通チャネル、市場の開拓
- 五つの領域におけるイノベーション
 - ①農民のニーズに応える商品のメーカー
 - ②大都市に行けない農民のための通信販売カタログ
 - ③売手の義務は、「委細なく返却致します」
 - ④通信販売のための低コスト輸送の発送工場
 - ⑤人間の組織を作りあげる

4. 経営者

リチャード・シアーズ（創業・社名）

1886年カタログによる時計の販売を始め、1893

年エローズとシアーズローバックを設立

— ジュリアス・ローゼンウォルド（市場の発見）

第一期・農民ニーズに対応

— オッド・ドアリング（発送工場）

農村を歩いて、農民は何に不自由し、何を欲しているかを徹底して調査した

— ロバート・E・ウッド

（市場の変化、小売店に転換）

交通革命への対応、郊外進出、都心の出入口でキヤッチ、分権制度

企業とは何か

- (1) 外部、顧客のために成果を生み出す機関
- (2) 人を雇用し、生産的な存在とする価値体系
- (3) 公益を考えるべき地域と社会の公的機関

マネジメントとは

- (1) 事業に命を吹き込む存在
- (2) 人類の生活の向上
- (3) 経済的な成果をあげる
- (4) 機械ではない経済を自ら作る

日本では、これが、
海外、他の企業と
M&Aをしていか
良いのか?
日本製品の価格、競争

産業革命と経済

- T・V・ハウザー（組織と人材の育成）
1978年 店舗数900 総売上172億ドル（小売業世界一）1987年売上266億ドル
- 時代の終りか（広報・女性向けファッション・通信販売）ライバルのモンゴメリ・ウォードなどの競争激化、転機

5. イノベーションとは？

いかなる事業にも、三種類のイノベーションがある。

- ①製品とサービスにおけるイノベーション
- ②市場におけるイノベーションと消費者の行動者価値観におけるイノベーション
- ③製品を市場へ持つて行くまでの間におけるイノベーションである。

6. 顧客にとっての価値は何か

7. 近代企業への成長の要因

8. 数々のイノベーション



9. 新しい問題と新しい機会

情報革命と 人工知能

AI時代の組織と人材 ビジネスマデル
アップルの iPhone などから
製品のアイディアが
しかし、アップルは、それによって
今までの方法を垂直統合から、水平合併に
変え、それを世界的規模にまで発展させ
状況の変化に従い、ビジネスを行なう変遷

AI時代の顧客とは

企業が生み出された時に、
ビジネスモデルを転換しなければ
ならない。
しかし、それは非常に難しい。
抵抗勢力が存在する。
ない。過去の成功体験だ。

AI時代の価値とは、

成長を分け合いか、儲かるといふ
形で常に若い選択肢を与えることではない
しかし、どうもなっていない。

→ AI時代のイノベーションとは

イノベーションは富を創造する能力を資源に与える。

植物は雑草にすぎず、鉱物は岩にすぎない。

ボーキサイトが資源になったのは一世紀少々である。これまででは地力を損なう厄介物だった。

第一に市場を見つける、-そしてシアーズ物語①

<u>時代、代表者</u>	<u>顧客と市場</u>	<u>イノベーション[準備投資]</u>
(20C前後のアメリカ) (1900年~)	(顧客は誰か) (市場の分析)	(流通チャンネルの組成) (経営方針と実施)
農民は何を求めているか シアーズ第1期	農民(孤立した存在) 孤立した独自の市場 既存の流通チャンネルでは到達できない	どうようにして市場へ入り込むか 流通チャンネルをどうするか メーリング発送工場 注文を効率的に、安価にさばく 通信販売の発送工場 世界最大の大量生産工場
偉大なイノベーションの実践	カタログ販売 農村を歩き、農民の欲求を調査	
ジュリアス・ローゼンワルド	一人ひとりは購買力は小さい 全体としては大きな市場 独自の巨大な市場 孤立した世界	ニーズと欲求に応える製品とカタログをどう変えるか 不定期から定期的なカタログ 宣伝より信頼、wish book 正直なカタログ、正直な販売者
1903年シカゴ発送工場 オッド・ドアリング フォードに先んじること5年	孤立した世界の住人 都市の消費者とは異なるニーズ チャンネルがない	農民は正直で信頼できる売手を求めていた、継続的な事業 宣伝というより商品を客観的に説明できるもの 買物に行けない農民 危険負担は売手にある
アメリカ経済成長の型	農民にとって価値のあるものとは何か 事業のマネジメントとは何か マネジメントは何を行うべきか	安い価格で、安定的に、大量に供給する必要性 商品のメーカーを見つけ育てる組織的な育成
第1次大戦の終り頃(1918) カタログと聖書は農家の必需品	モンゴメリーウォードを抜く	システムと組織の確立 生産的な人間組織をどう作るか きっちりと商品配給できるシステム マネジメントに全権限と全責任 全従業員に自社株
商売、ビジネスーサヤ取り的な発想の変革	市場ニーズ(不便さ)の解決とは	
	チャンネルを作れば そこは大きな市場	商売(商品提供)という概念の変更、変革 そのシステムを作り上げる商売、サヤ取り的な発想からの脱却
		事業とは継続一時的なもうけではない

>

農民は収穫機を置き始めた。
 そのとき、マーミットかい割賦販売を
 考えついで、農民は過去の寄りかいでなく、
 未来の穀をから収穫機を置き80%をもた
 …当然、購買力という資源が生まれた。

シアーズ物語②

時代、代表者	顧客と市場	イノベーション[準備投資]
(1920~30年)	(顧客の変化) (市場の分析)	(流通チャンネルに対応) (マネジメントの必要性)
<u>収入のUPした人々(農民と都市労働者)は何を求めているか</u>		
シアーズ第2期	農民は孤立した存在ではなくなった 巨大な農村市場の変化	どうやって市場へ入り込むか
どのように変化に対応するか		
シアーズの市場の急激な変化 (1930~1960の対応)	しかし、都市市場は未開拓な暗黒市場 消費者(農民、都市労働者)交通革命に注目	従来の流通システムは階層別市場に対して陳腐化 中央集権的組織(通信販売)の限界
ロバート・ウッド	自動車のおかげで町で買い物し、 生活水準の向上、中流化した 巨大な都市市場の出現	自動車を持つ農民と都市人口 は何を求めているか (顧客対応)
農民と都市労働者 は何を求めている か	農民と都市労働者 会社の基本方針の革命 組織を四階層にシンプル 都心の出入口で顧客キャッチ 都会は見物、買物は入口	店舗による小売業の必要性 中流階級向け商品の開発 冷蔵庫など上流品の設計変更 メーカーの育成
T・V・ハウザー 商品開発とメーカー組織化	都市の下流階層の所得上昇 と上流の階層と同じ商品欲求 国全体の同質的な市場 に対する対応とは何か 市場のニーズとは 商品をgood, better, bestに区分、サイズ を大中小…	小売業への進出の必然性 人の必要性 必需品商品の開発 大量生産できる数百社のメーカーの組織化 店舗を運営する店長の養成 組織構造の全面的な変革
人材の育成こそ、アメリカ産業の発展の基礎	顧客層の明らかな変化 大量生産と大量流通の世界とはどんな世界か	分権化した組織の必要性 人材の必要性と育成 店舗ごとの店長の権限と業績評価 企業としての一体性と店舗の自立 店長と売場主任の体系的な育成
チャンネルは何か 変化への対応	事業のマネジメントとは何か マネジメントは何を行うべきか	買物の習慣の変化 [大量生産と大量流通への適応]

シアーズ物語③

時代、代表者	顧客と市場	イノベーション(準備投資)
(1954～)	(将来の顧客)	(イノベーションのヒント)
	(将来の市場)	(何を準備すべきか)

シアーズは顧客と市場を見つけることができなかつた…

シアーズ第3期	働く母親や主婦	どうようにして市場へ入り込むか
ウッド会長退任 ハウザー就任	働く母親や主婦とい う市場	地平線の向こうへ何かあらかじ めとは不可能でないにせよ 新しいことを。
第3のイノベーション (1970年～の対応)	モノゴメリーウォードの肉迫など	主婦の勤務とシアーズの営 業時間 AIがフレンドリーなうえを考慮して 訪問販売の可能性検討
自らの事業は何か	顧客ニーズに応じるとは	再びカタログ販売か
市場はどこにあるか	ニーズ(不便さ)の解決とは	オートメーションとフィードバックの原理を徹 底的に適用したオートメーション工場の必要性
どのようなイノベ ーションが必要か	事業のマネジメントとは何か マネジメントは何を行うべきか (何故第3回のイノベシ ョンが出来なかつたのか)	イノベーションとは付加価 値を付けることである、経済 学では土地や設備や資金(資 本)が付加価値を生むとされ る。経営においてはマネジメ ントの活動(イノベーション) が付加価値を生産する
新しいチャンネル は何か	イノベーションは(必要 性)の変化への対応である	

やはり、事業は変化する

AI時代の顧客とイノベシ
ョンと生産性

医療品メーカーが動物市場を拒否したという事

高炉メーカーが電炉を拒否したという事実・・・は経営陣の変化に対する
読みの甘さや理解の欠如である。

第二次大戦後、ある特定の生活様式を持つものがデパートの客となった。

ブルーミングデイルこそアメリカのデパートの中で、最初にこの変化を認識し
利用し、新しい大店舗小売店のイメージを確立することに成功したデパートであった。

トインビー 歴史の研究②

(127~180)

2021.6.28

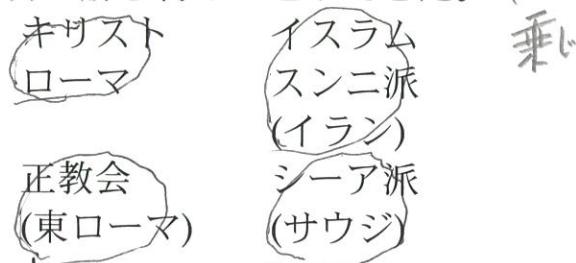
項目

内容

備考

第一篇序論
歴史研究の単位
(127~

1. キリスト教の勢力
何故下層宗教のキリスト教がアレクサンダー以来のローマの支配者の中に勢力を伸ばしたのか。それはローマ支配の弱体化(創造性を失い衰退化)が起きた3Cが社会へのキリスト教植栽のチャンスとなつたのである。これに対し教会は、民衆の支持を勝ち得ることができた。



- ① 対外関係
- ② 孤立的から拡大へ
- ③ 自足的全体的な問題解決
- ④ 他の世界との交渉 影響
- ⑤ 個々の国家か、社会か

2. 西欧文化の大変更

- (1) 西欧がキリスト教に改宗したとき
- (2) 脱キリスト教となったとき
 - ① 科学信仰
 - ② ナショナリズム
 - ③ マルクス主義
- (3) 西洋は一神教
東洋は汎神教

第二章
挑戦と応戦

1. 文化形成の要因

環境は文化形成の原因のすべてではない。
人類のうち温暖で豊かな地域に残った少数者は、
そのまま未開野蛮の状態に止まっている。多数の
北方へ進んだ者たちのほとんどの者は、ある小集
団を除き、寒さと餓えで死に絶えた。

この小集団に属する人々は、皮膚を刺す寒さから逃げることができないことを知り、人間の才能の中で最も高級な、意識的発明の能力を利用した。

ある者は地中に穴を掘って避難所を見出し、ある者は木の枝や葉を集めて小屋と暖かな寝床を造った。わずかの間に、これらの野蛮人は、文明の大きな歩みのいくつかを実現した。裸だった者が着物を着るようになり。その日暮らしをしていた者が、肉を干し、木の実を蓄え冬に備えた。

2. メンデルとルイセンコ

- (1) メンデル(1822-1884)は、遺伝を主として、生物体の内的要因を求めたのに対し、
- (2) ルイセンコ(1898-1976)は、環境との関係から、遺伝的性質の可変性を唱えた。
- (3) 依正不二とは、依報と正報のことである。
- (4) 依報とは、「すべてを含んだ環境」であり、正報とは「生命主体」のことである。
- (5) 生命主体とその環境は、現実世界においては、二つの別個のものと理解できても、その実在においては、一体不二に融合している。
- (6) “依正不二”の概念は、私が考えている万物の真の在り方を簡潔に説明するものようです。
(トインビー)

(147—

3. エジプト文明の発生

トインビー 歴史の研究③

(181~232)

項目	内容	備考
第三篇 文明の成長 第2章 文明の成長の性質 (181—	<p>1. 最適の挑戦とは</p> <p>最も大きな刺激を与える挑戦とは、きびしさの過剰ときびしさの不足の中間の程度の挑戦である。不充分な挑戦は、挑戦された人間を全然刺激しないおそれがあるし、反対に過度の挑戦はすっかり士気をくじいてしまうおそれがある。しかし、スバルタ人などの挑戦のはなれわざは、それを行った者に、発展の停止という致命的な罰を課することもある。</p> <p>真の最適の挑戦とは、挑戦された人間に、ただ一度のうまく成功する応戦をさせるだけでなく、さらに一步進むように刺激する挑戦、一つの事業の達成から、また新たな努力へと前進する挑戦である。それは、地理的拡大が質の低下を示しはじめた5世紀までのヘレニック社会の拡大のように。</p>	
第3章 成長の分析 (198—	<p>1. 創造的個人</p> <p>創造的な少数者が前進し、非創造的な多数者をそれに従わせる。或いは、慣習の殻を破り、創造的少数者を模倣する。</p>	
第4章 成長による文化 (211—	<p>2. 仏教の伝播</p> <ul style="list-style-type: none"> (1) 釈迦牟尼 BC566~486(BC462~383) (2) 鳩摩羅什 344~413(350~409) (3) 智顗 天台大師 538~597、法華主義 	

項目	内容	備考
	<p>(4) 聖徳太子 574~622、三経義疏、仏教興隆 (5) 最澄 767~822、伝教大師、顕誼、奈良七大寺と京都の対立 (6) 桓武天皇 737~806、794 平安遷都 (7) 空海 774~835、弘法大師 (無量義經) 釈尊最後の説法、すべての教えはただ一つの真理、無量義にある。 無量義(数限りない教え)－無相、実相－世界は一切が平等、虚空－諸行無常－変化の中の一切の本質を見る－生・住・異・滅－自利利他</p>	

3. 真理と価値

「価値」とは、対象と我との関係を表現したもの、主観である。

「真理」とは、有りのままの実在を表現したもの、客觀である。

価値は、対象と人生との情的関係性であり、真理とは対象の概念であり、全くその性質を異なる。

価値は、人生に質的に関係するものであり、真理は、あるがまま量的なものである。

価値は人が創造するものであり、真理は、真が偽であり創造することはできない。

有益性は、創造であり、価値である。

真・善・美という系列は、真という客觀と善美という価値の無関係な並列であり、利・善・美の系列が正しい。

真理は不変、価値は可変

教師の質が教育を左右する－価値

(創価教育学体系 牧口常三郎著)

トインビー 歴史の研究④

(233~311)

項 目	内 容	備 考
第四篇 文明の衰退 (213~ 第4章 自己決定の能力の減退 (233~	<p>1. 衰退の原因</p> <p>(1)神のしわざではなく、 (2)意味のない自然の法則のくり返しでもなく、 (3)環境を支配する力の喪失のせいでもなく、 (4)工業技術の退化や外敵のせいでもない それは文明の自殺である。</p>	
(237~	<p>2. 有機体の機能</p> <p>自然是有机体の機能の90%ぐらいを、自动的に最小のエネルギー消費で行われるようにしている。ここに破局の危険が潜んでいる。</p> <p>「慣習の殻」で安定していた社会が、向きを変えて創造的リーダーにひきいられていくとき、成長する社会は危険に直面しなければならない。</p> <p>3. 古い皮袋に入れた新しいぶどう酒</p> <p>(徳行品第一)</p> <p>お釈迦さまが、靈鷲山で説教されるとき、そのまわりには多くの出家修行者、菩薩に、空の鳥や妖怪、地の動物や鬼神、海底に住む魚や鬼たちも加わり、大王や諸国の王や女王、その家来などが整然と控えておりました。</p> <p>お釈迦さまは、すべてのものに上下はなく、この世はすべての広さと高さに限りはなく、どこまでも澄みきっており、一切の差別はないと話された。また、仏というのは、善行を積み、慈悲の心を持ち、智慧、解脱、知見などの修行の結果であり、仏も衆生の一人として法華経の善行を積んだ結果である。</p> <p>仏の命、人の命は、有るとか無いとかで図れない。何かの因となったり縁となることもなく、自他の区別もない。四角いとか丸いとか、短いとか長いとかで考えるものではない。出るとか隠れるとか、生ずるとか滅するものでも</p>	

項目

内容

備考

なく、坐っているでも、臥しているでも、行くでも住まるものでもない。
 動いているとか、転がるとか、じっとしているものでもない。
 進んだり引いたり、安全であるとか危険であるといった見方では考えられない。
 これは、得になるとか損失になるとか、そのような計算ではない。
 あれはこう、これはああという区別はなく、あちらに行くでもこちらに来るでもない。
 青でもなく、黄でもなく、赤いでもなく、白でもない、それは色で現わしようがない。
 それは自分の、人の、世界の生命であり、すべての幸福を求めることが根本である。

(説法品第二)

仏の説かれる“法”は一つ、根本原理はただひとつその一つの法から無量の（数かぎりない）法が生まれる。

世尊は問われて、答えられました。
 よろしい、いい時に訊いてくれました。いま、訊かないとその機会はないのです。わたしはもうすぐこの世を去ろうとしているのですから・・・。
 世の中のこととは、上、下もない。平等で透きとおっている。そして、無常で変化してやまない。その中で一切のものごとの実相を見極める修行をすることが大切である。

先ず、その世界を見つめる、どんな世界かを正しく見極める。

- (1)それから、そこに生ずるものを見つめる
- (2)生じたものが安定することを見つめる
生じたものは変化しないかどうかを見つめる

項 目

滅

内 容

備 考

(3)変化したらそれを見つめる
 (4)変化が滅になることを見つめる
 これらを冷静に見通さねばならない。同時にその善惡も知らねばならない。
 世の中は、変化して一刻も止まず、その生、住、異、滅という変化を見てとらねばならない。その中から無量の教えが明らかになる。

(十功德品第三)

法華経の教えを実行すれば、十の不思議な功德がある。

- (1)大乗の教えを学び、自分の幸せ(自利)と人の幸せ(他利)を起こさせる
- (2)この教えは、譬えれば心に一個の種子を植え、その成長を図るものである
- (3)この教えとは、力の強い人が重い荷物をかついで遠い道を力強く行く観がある
- (4)竜の子が生まれて7日も経たないのに、よく雲を起こし、雨を降らせることができるようある
- (5)この教えを聞けば、どんな困難があっても進もうという強い心が起きる
- (6)この教えを修得すれば、幼い、弱い身であっても自立した考え方と行動ができる
- (7)この教えは信ずれば、自他の間に差別を感じず現象の変化に迷うこともない
- (8)この教えは、人に深い慈悲の心を生じさせ、人々を救うことができる。
- (9)この教えに接すれば、人は魂の躍動を覚え、清らかな心となる。
- (10)さまざまな信仰の結果と仏の道を悟ことができる。
 (法華教 ✓ 無量義教)

項目

内容

備考

(304~439) 后光は、前秦の皇帝^{苻堅}の命により、

五胡十六国時代、鳩摩羅什を率いて龜茲(クズ)に出征し、龜茲を下し^{ヒガヤ}羅什を締め。しかし苻堅が淝水で東晋に敗れたのと同様に姑臧(甘肃)^{ヒタチ}に逃れ、大涼を征て天王と称した。
^{武威}

鳩摩羅什の父はイストラの貴族で、母は龜茲の王の妹である。

母は560年坂龜茲で生まれ、7歳で出家し、9歳で~~佛~~^{釋迦}にて江之川へ行き仏教を学んだ。仏教界の天才と呼ばれる。母親から東方には仏教がありることを学んでいた。

父が10歳はいつて喪失に入り、仏典の復讐という大業を成した。龜茲の言語は、ギリシア語やテラソニの言語と云われている。

羅什の200年ほど後、藏法師玄奘といふもう一人の仏教界の天才が出来た。玄奘の仏典復讐は正確無比などと云われている。

羅什の翻訳は、正確^準さが正確さよりも、仏典の精神をつかみ、わかりやすく説くことに重きをかねてゐるといわれている。

五胡(汉以外の五つの異民族)

(1) 鮮卑(ヒウ系) — 前燕、後燕、北魏

(2) 匈奴 — 汉、前趙

(3) 羯(チイ) — 前秦(苻堅)

(4) 羯(チイ) — 後趙(石勒)

(5)羌(チヤウ) — 後秦

(420-589)
南北朝時代

異民族を統一し、政権を治めるために、仏教が必要である。

(十八史略)

Next Society

1. Beyond The Information Revolution (知っているのは non customers)

2020.07.20
2017.08.01

Next Society 2002年

AI と ICT

1. IT 革命の先に何があるのか

(1) e コマースが世界を変える

- ①社 会
- ②経 済
- ③世界観
- ④新産業の出現

中国のアリババ

e-コマースはITインターネットの成果

IT e-コマース→新しい世界、新産業

蒸気機関-鉄道→新しい世界、新産業

(2) 製品やサービスの取引

- ①製 品
- ②サービス
- ③流 通
- ④消費者
- ⑤消費行動
- ⑥労働市場
- ⑦知識労働者の求人求職
- ⑧大流通チャネルとしてのインターネット

センサー、無人化

2. 新しい社会の入口

2001秋、貿易センタービルテロ
アマゾン、エイバブル、マイクロソフト
グーグル、スティーブジョブズ
米国の信頼の基盤化

e-コマース (配送の変化)

経営と専門職の変化

経済と政治の変化の加速

市場と産業の変化の加速

製品とサービスの変化

新型コロナウイルス

インバウンド、ショッピングモール
テレワーク
政府の役割、政府の予算

政治と経営の変化

産業と市場の変化

製品とサービスの変化の加速

人間と社会の変化の加速

Next Society 2002 年

3. 1455 年グーテンベルグの印刷革命以来の道

(1) 18C 後半から、19C 後半にかけて産業革命がたどった道

(2) IT 革命の最初の 50 年の道

4. ムーアの法則

(1) コンピュータの性能は 1 年半で 2 倍になる

(2)

5. 産業革命が、工場と労働者階級を出現させた

(1) 農業から工場へ労働が移った

(2) 鉄道が、世界の経済と社会と政治を一変させた

(3) 鉄道は、心理的な地理概念を変えた

(4) e コマースは、産業革命における鉄道と同じである

6. e コマースは距離を消去した

(1) もはや世界は一つの経済、一つの市場となった

(2) e コマースには何が乗るかわからない

(3) 商店からスーパーへ、スーパーからチェーン店へ

(4) e コマースの変化は予測しがたい

爆發的...

AI と ICT

知識の普及、革新

ワットの蒸気機関 1785
鉄道の実現 1829 (44年)
(近便新聞、P&G) 1860
コンピュータの実現 1945 (45年)
インターネットの実現 1990 (30年)
(e-マーケット、AI...) 2020

(鉄道は、物の距離を縮む) ~~貿易~~

(e-マーケット、距離を消す)

(e-マーケット、感情的、心理的な距離を縮む)
貿易は、感情的

7. 40 年前、20 年もすれば新聞は画面に変わるだろう ヒトセレクタ

- (1)しかし、未だ金脈を掘り当てた新聞は少ない TV 時代の予想
- (2)しかし、20 年前にアマゾンは、予想に反して
本の通信販売に成功した 速さの予想
- (3)中古車でなく、新車はインターネットで販売されている 新聞は飛行機でなく
- (4)証券販売も予想外にインターネット化しない て蒸気船なのか
- (5)マネジャーや専門家の求人求職は、インターネット化している

8. e コマースのインパクト

- (1)流通チャンネルは、顧客が誰かを変える 顧客、商品、消費行動
- (2)何を買うかを変える
- (3)消費行動を変える
- (4)産業構造を変える

9. 伝統や慣習

- (1)そんなに古いものではなく、早い目に捨てなければならない そんなに長い歴史のあるものではない
- (2)伝統や慣習こそイノベーションが重要 その時とのイノベーションである

9.起爆に続く爆発

- (1)鉄道は、100年近く続いた
- (2)1830年代に電報と写真が現れた
- (3)次に光学機器と農業機械が現れた
- (4)公衆衛生が成長部門となつた
- (5)新たな社会制度、近代郵便、新聞
投資銀行、商業銀行が発達した

1829年→1929年
近代が現れた

10.逆転

- (1)人口構造の変化、若年人口の減少、出生率の低下
- (2)富と雇用の生み手としての製造業の地位の変化
- (3)労働力の多様化
- (4)高齢人口の急増
- (5)国内市場の激変

11.人事管理が変わる

- (1)フルタイムの正社員の人事管理
- (2)企業に働くもののすべての人事管理
- (3)会員の働きぶりが重要
- (4)契約ベースの社員

*主 (5) 人間の組織を必要とする組織、
組織から組織をもつて組織する*

(3) The Railroad

1829年

Lith 110 A

鐵道技術研究會

The Railroad was the truly revolutionary element of the Industrial Revolution, for not only did it create a new economic dimension, but also it rapidly changed what I would call the mental geography.

For the first time in history human beings had true mobility. For the first time the horizons of ordinary people expanded.

it was the railroad that made France into one nation and one culture.

Lith 110

鐵道技術研究會

E-commerce is the Information Revolution what the railroad was to the Industrial Revolution — a totally new, totally unprecedented, totally unexpected development.

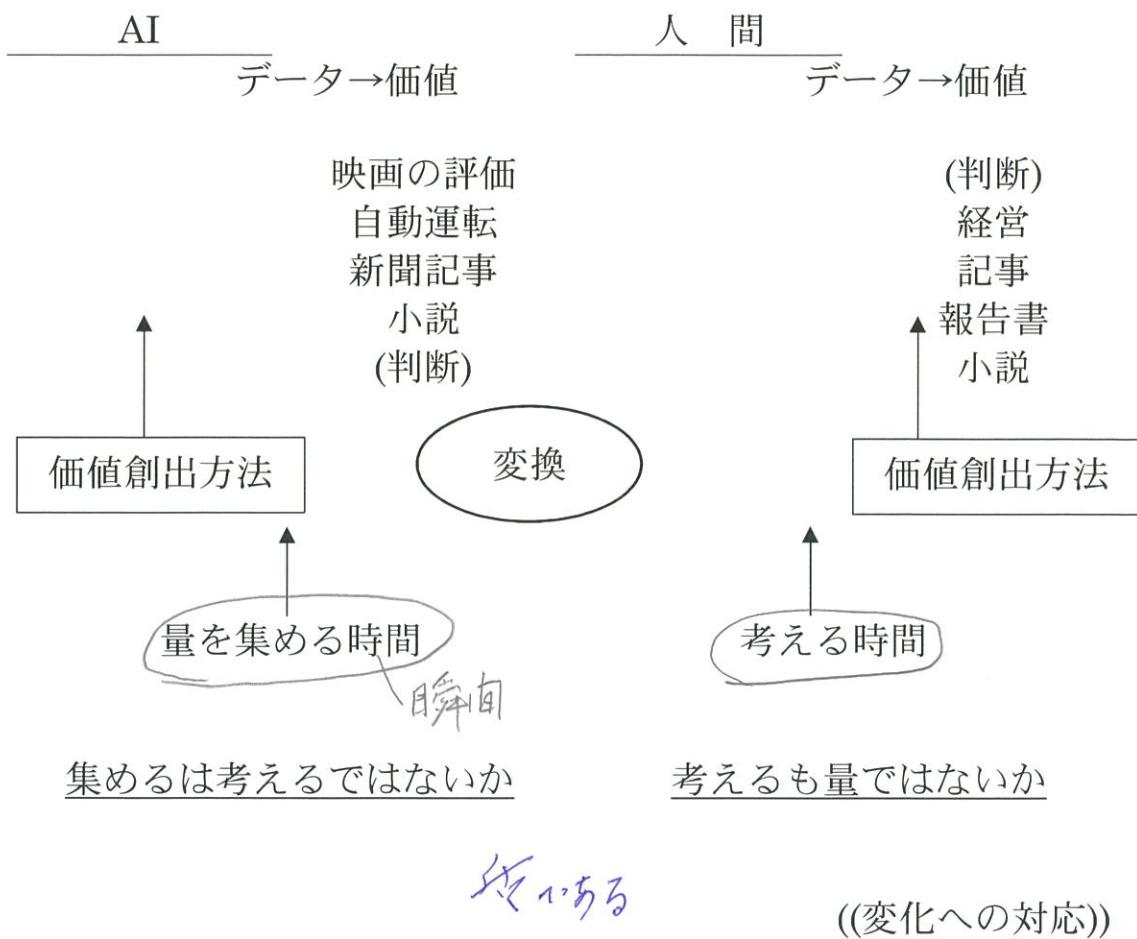
And like the railroad 170 years ago, e-commerce is creating a new and distinct boom, rapidly changing the economy, society, and politics.

In the new mental geography created by the railroad, humanity mastered distance.

In the mental geography of e-commerce, distance has been eliminated. There is only one economy and only one market.

距離も消えた

データを価値に変えるには



必要な情報の収集

- (1) 手にするデータは増えたが、ほとんどが組織内内部情報 ↗
 (2) 最も大切な情報は、外部の情報、外部世界
 (3) これまでの世界が続くと思うのはおろか者
 (4) チェンジエージェント(変革機関の必要性)
 (5) 既存の組織ヘイノバーションを移植することはできない、組織全体を変えねばならない

社会の変化
(IT - 量と転換進歩)
Next Society ①

No. ① 301
Date 2018.07.21
2018.07.26
2018.05.21

1. Beyond the Information Revolution

(1) Preface

量: 自動化技術 (技術・技術)

质: 後退する社会 (社会・事業)

→ E.コマース

革新的技術と社会構成因子が複数重複する
社会の変化

大きな流れは過去の歴史

貨物流動

Talk of the New Economy and of a perpetual stock market boom., I had been there before.

The Society was changing,

The Information Revolution was only one factor, and perhaps not even the most potent one.

Demographics were at least as important,

especially the steadily falling birthrates in the developed and emerging countries with a birthrate in the developed and emerging countries.

The shrinkage of the young population was a total reversal and unprecedented.

(2) Next society の理解 / understand

To be able to exploit those changes as opportunities for the enterprise - again, for both businesses and non profits, where large or small - executives will have to understand the realities of Next Society

10. Next Society の到来

(1) 雇用形態の変化

① 高年人口の急増と若年人口の急減、病(院)人口の急増

② 雇用関係にない人たちの増加

③ 若年人口の急減

ローマ帝国崩壊以来人口維持出生率 2.2 以下(中国、ブラジルでも)

国内市場の激変

大量の若年移民の受入れ

若年中心の市場→中高年中心の市場

④ 高度の競争社会

知識社会

知識が中核の社会

(2) ロックフェラー(1839-1937)はすべての事業を一貫して行うことによって効率を上げ、コストを抑え、史上最高の収益性を誇る

大企業スタンダードオイルを築きあげた

そして、1920 年代ヘンリーフォードがこの考えを徹底して実現した

(3) あらゆる製品とサービスは、どの企業が行いどの市場を顧客にするかは自明とされた

(4) パラダイムの変化

ところが 1970 年頃にすべてが変わった。

第一に、知識が主たる生産手段、すなわち資本となった

しかし、このとき、アメリカでは産業を先へヘルプを
がんばる。GM のデュアル・ペイントは流し手ではないとされていました。
また、スローンは例えゆずられても、各部門の最高責任者といふ
をヘルプする正統的な立場を取っていました。これは集団的ではなく合意であった

よりす
11.一つの組織、一人ひとりの成功と失敗にとって
……経済よりも社会の変化のほうが重大な意味を持つに至った

それは、大きな流れを理解することである
大きな流れを機会とする

- (1) 若年層の減少
- (2) 労働的人口の多様化
- (3) 製造業の変身
- (4) 企業の変容
- (5) トップの変化
- (6) 知識や技術の伝承

大きな流れに乗った戦略の必要な時！！

変革

12.廃棄と返却(イノベーション)

- (1) 成功していないものは、すべて廃棄
- (2) 組織的、継続的な改善と変革 と 廃棄
- (3) 予期せぬ成功、計画外の成功の追求
- (4) 体系的なイノベーション
- (5) 変化は脅威ではなく、チャンスととらえる

13.未来は予測しがたい方向に変化する

14. 情報技術

(1) 競争

ローカル→グローバル
価格の知識の瞬時の普及

(2) 情報技術知識社会

肉体労働者→テクノロジスト

(3) 20世紀の変化

- ① 農業貿易品 70%→17%
- ② 製造品 70%→20%

(4) グローバル企業の変質

15. IT革命に二つの革命

(1) IT革命は、前例のないスピードと根源的な影響か

(2) 二つの前例

- ① 18C～19C 第一次産業革命(蒸気機関の実用化)
- ② 19C後半 第二次産業革命(1829年の鉄道の発明)

世界历史

差出人: yamauchi masaki masaki_yamauchi@hotmail.com

件名: Re: N096 《日本历史结束了》

日付: 2021/06/23 14:38:48

宛先: zheng peijun zhengpj222@163.com

2021.06.28

亲爱的bb

谢谢给我一起学习日本历史。你看我的电子邮件，我可以继续学习，谢谢你！！

现在，我计划学习世界历史，很短大概40篇左右，给你一些、一定又你太麻烦了。

2021年6月23号

baba

iPadから送信

2021/06/21 20:39、zheng peijun <zhengpj222@163.com>のメール:

感谢爸爸！为了给我讲日本历史，

快速地完成了👍

我之前对这些历史细节完全不了解😊

谢谢你的解说，还有你的见解，

我学习了很多🙏

以后有机会我也再好好学习！

----- 回复的原邮件 -----

发件人 yamauchi masaki<masaki_yamauchi@hotmail.com>

发送日期 2021年06月20日 20:09

收件人 peijun zheng<zhengpj222@163.com>

主题 N096 《日本历史结束了》

亲爱的bb

谢谢您，刚才，日本历史结束了。学习日本历史100编，速度较快。因为我的知识很低，

而却，我很高兴图历史，所以拙而速。给你太麻烦，对不起！！

但是，我享受的很多很多。以后，从头再读一遍，更改善一层。

以后，我决定，希望学习，①在学日本历史，②世界通史，③中国通史，

④日本战后史

汤因比以前对日本学者说，

1929年，满洲事变的2年前，在日本京都召开了太平洋问题调查会，来日的英国历史家，

汤因比说，日本站在一个历史的命运歧路。他严重的说，

「对满洲问题，日本的责任重大，这决定日本的命运」

这是对罗马战争的“卡尔特哥”的命运。现在，美国，苏联是20世纪的产业大国，

好像罗马帝国。日本一步之吴，受不可弥补的悲剧。

以后，日本的方向是汤因比的预言

2021年6月20号

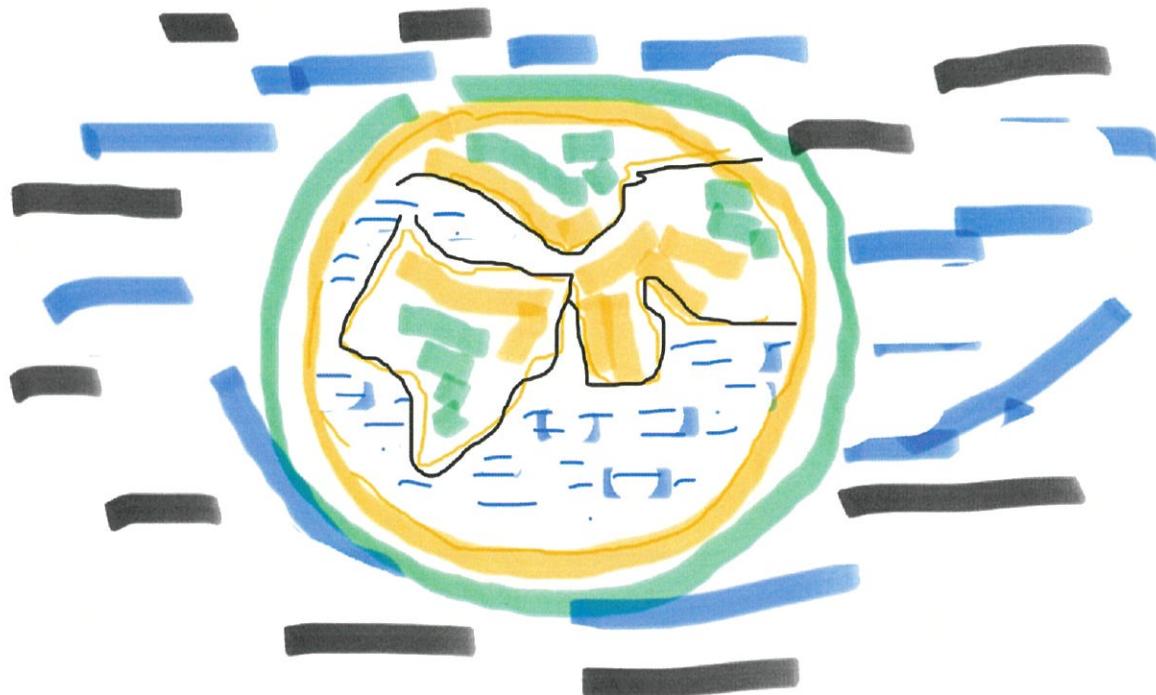
iPadから送信

差出人: yamauchi masaki masaki_yamauchi@hotmail.com

件名: 世界历史 (N01) 《人类的起源》

日付: 2021/06/25 21:21:57

宛先: peijun zheng zhengpj222@163.com



我们的地球，大约已有50亿岁的年龄。

(1) 30亿年前，开始有生命。

(2) 1500万年前，开始人目的发展。

500万年前，估计就出现了，可以直立行走的“猿人”。

他们的前肢解放了起来，逐渐发展成为双手。

200万年前，这种生物的脑量增加了3倍，从“猿人”变成了能人”。

(3) 50万年前，“能人”石头做成，就成为石器时代”，北京猿人使用火
🔥。

7·5万年前，经过了很长一段路程。出现了“旧人”，就是，“尼安德特人”。

4万年前，出现了“智人”或者“新人”，就是“科罗马尼翁人”。

(4) 6000年前开始文明史。

文明史的百分比是0·4 6千年/15000千年

2021年6月25号

差出人: yamauchi masaki masaki_yamauchi@hotmail.com

件名: 世界历史 (N02) 《开始文明史》

日付: 2021/06/26 8:33:34

宛先: peijun zheng zhengpj222@163.com

你好👋，可爱的👩‍🦰bb！！

人类祖先，在距今约40000年前，终于完成了自己整个进发过程，而转变为人类。

人类在文明之前的200万年的历史，在内不足6000年的文明史。

人类祖先在非洲大陆上出现，并逐渐扩散到欧亚大陆，欧达利亚和并南北美洲。

世界历史和地理被认为是构成地球表面的各大陆地理的总和。

文明的性质，特征包括，①城市中心，②政治权利，③纳贡或税收，

④文字

⑤社会分为阶级或等级，⑥巨大的建筑物，⑦各种专门的艺术和科学，，，，，

- (1) 米索不达米亚文明。 5500年前
- (2) 埃及文明。 5000年前
- (3) 印度河流域文明。 4500年前
- (4) 中国黄河流域文明。 4000年前

农业革命是人类成为真正的认之所取得的第一个重大成就。

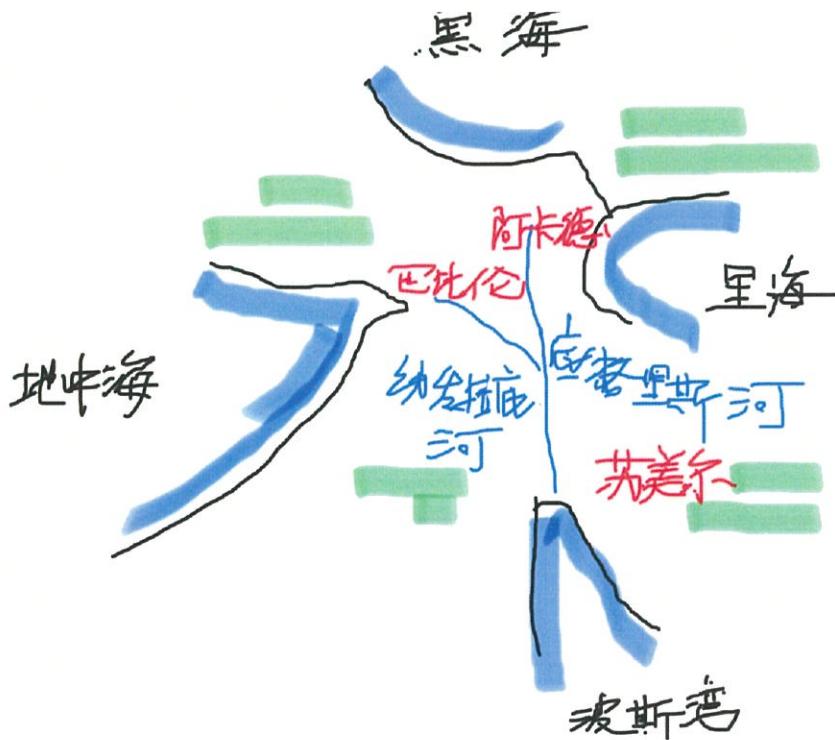
来生产自己的食物。有了完全新的发展，在他们中间出现了文明。

2021年6月26号

你的baba

iPadから送信

差出人: yamauchi masaki masaki_yamauchi@hotmail.com
件名: 世界历史 (N03) 《两河流域——一个聪慧的种族》
日付: 2021/06/26 11:00:25
宛先: peijun zheng zhengpj222@163.com



你好👋！！可爱bb!

两河流域，“米索不达米亚”是古希腊语，意指“两河之间的地方”，所以也成为两河流域。

古代，两河流域巴比伦地方分为，南，北两部分。

南部称“苏美尔”，北部称“阿卡德”。

5200~4700年前，苏美尔地区出现了一些列独立的都是国家。南部的苏美尔人，已经创造了人类的第一高度文明。

一时，阿卡德建立了中央集权，建立了大帝国。他们自称，“天下四方之王”，但是不长寿。

巴比伦位于幼发拉底河中游是西亚贸易的要冲。

大约3700年前，巴比伦国王，汉谟拉比大王建立中央职权制度。

制定了“汉谟拉比法典”。

苏美尔人当时已有自己的信仰，而却足一种多神的宗教。

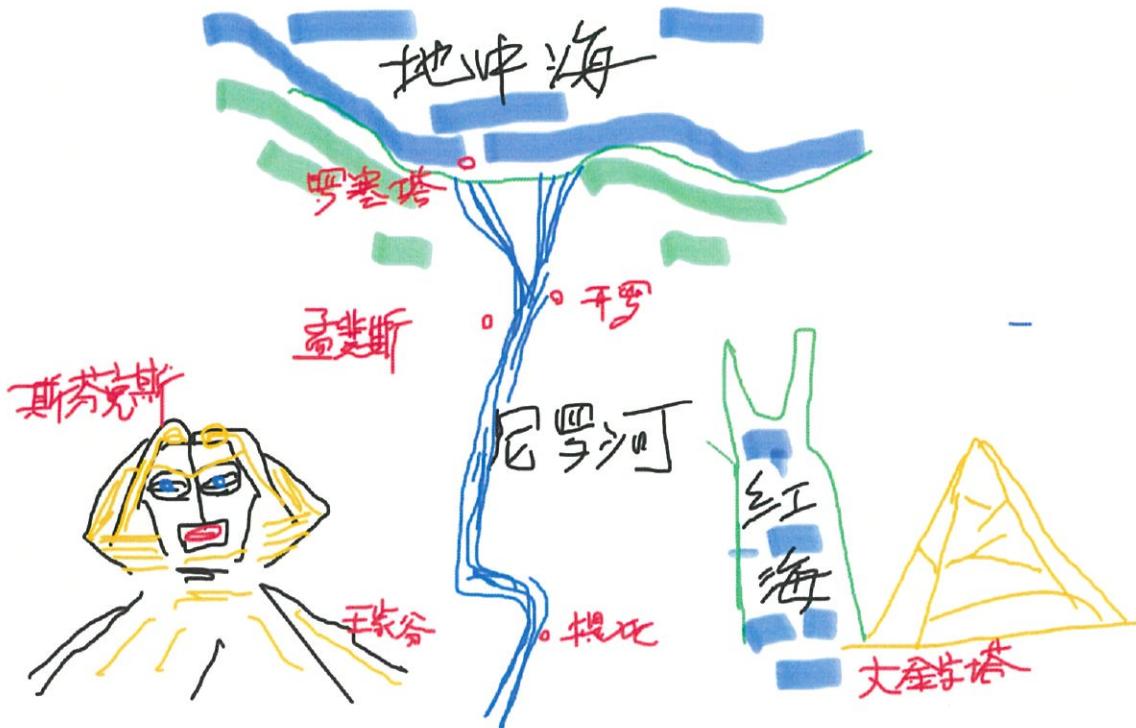
苏美尔的发明“楔形文字”。是人类历史上的迈出的两大步。

他们大量制作和消费面包，已经酿酒技术，制成啤酒。

苏美尔人繁荣的时期持续了约1500年。
他们的文明扩张到了中东地区的大部分。
而以后他们为什么从历史上消失。我们无法给予准确的回答。
但，他们的创造和他们的文明却延续下来。
，，，，， 我想， 很浪漫， 古代史，，，，
2021年6月26号。ba

iPadから送信

差出人: yamauchi masaki masaki_yamauchi@hotmail.com
件名: 世界历史 (N04) 尼罗河—第一个世界奇迹
日付: 2021/06/26 20:30:05
宛先: peijun zheng zhengpj222@163.com



你好！！👋！！

古埃及是非洲东北部尼罗河中下游地区的，5000多年的古老文明。距今8000年以前，埃及农业就已相当发达，并使用铜器。6000年前逐渐形成了两个对立的王朝，一个是，尼罗河南部，称为“上埃及”，另一个是，占有尼罗河三角洲，称为“下埃及”。大约5000年前，上埃及的国王，美尼斯征服了下埃及，统一埃及，创建了“第一王朝”，大约100万居民的大国。以来到公元前343年希腊人“亚历山大大帝”征服埃及前，共经历了古王国，中王国，新王国，三个王国，31个王朝更迭。

尼罗河由发源于非洲中部河汇合而成。途中流经森林和草原地带，富含丰富的腐殖质，

每年7月至11月定期泛滥，两岸积成肥沃的黑土地，使尼罗河成为埃及的粮仓。

所以古人说，“埃及是尼罗河的赠礼”。

埃及的国王称为“法老”。法老统治的王朝下，官吏和祭司，商人和手艺人，

和等级最下的占全国85百分之率的广大农民。

他们修建了宫殿，法老的墓碑，“金字塔”，“司芬克斯”。

埃及人相信死后的生活。所以制作“木乃伊”。

最初，他们利用手指计算，其后创造了一种数字。古埃及人有天文学的知识，

将一年定为365天，每年12个月，一个月30天，剩余5天作为节日。

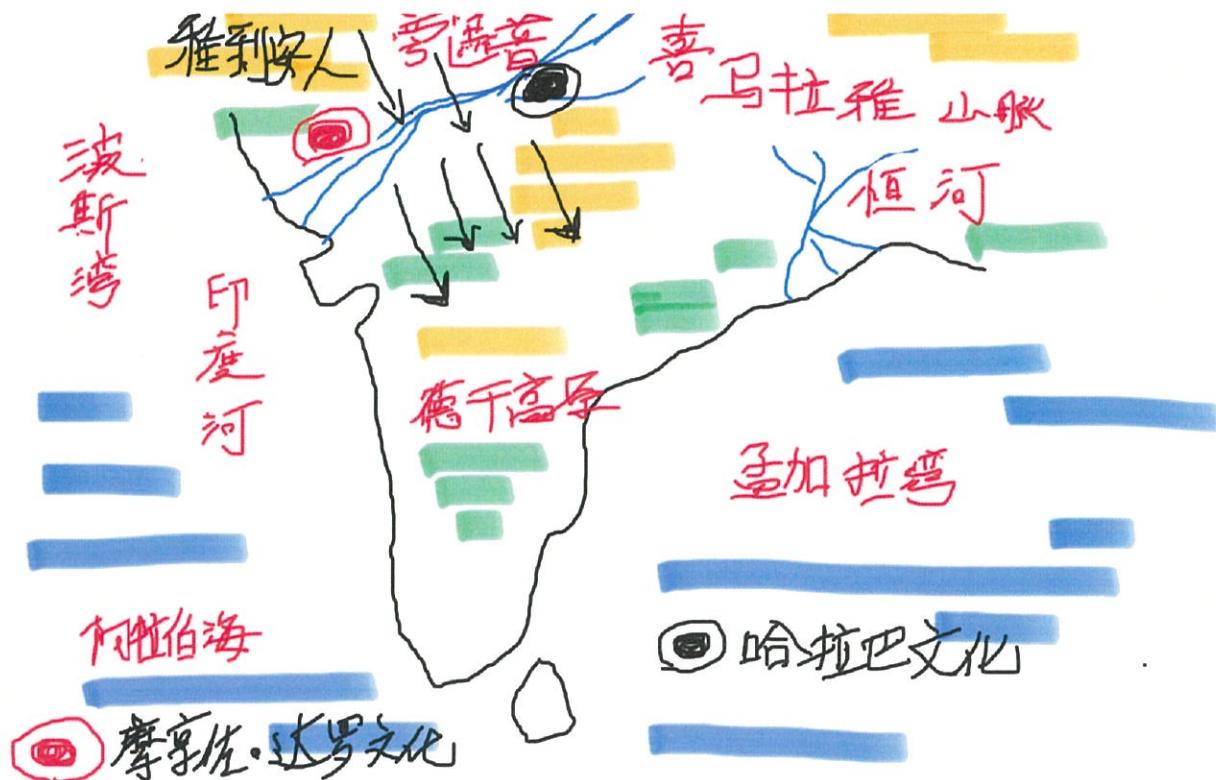
苏美尔人和埃及人的文明，是人类历史的第一个高度文明。

2021年6月26号

ba

iPadから送信

差出人: yamauchi masaki masaki_yamauchi@hotmail.com
件名: 世界历史 (N05) 印度河畔——南亚次大陆文明
日付: 2021/06/28 5:32:44
宛先: peijun zheng zhengpj222@163.com



你好！！



印度的北部是喜马拉雅山，东、南、西三面环海，成为一个独特的地区，古代印度文明即在这种条件下诞生。

印度文明，我们了解的最小，它的文字至今还没有理解读出来。

对它的研究，目前只能依赖考古发掘。

1922年考古学家，在印度河流发现了一处文化遗址，这就是“哈拉巴文化”。

哈拉巴文化有两个中心，一个是印度河上游的“哈拉巴”，一个是印度河下游的

“摩亨佐，达罗”。两者相距500多公里。

文化的年代范围，距今大约4500年前～3750年前。

文化已经有文字，但文字至今无人破读成功。
文化的主要经济部门是农业，在生产工具上，同时并用，
纺织，制陶，手工业制品的水平已经较高。
在贸易方面，已经和埃及，米索不达米亚两河流域有商业往来。
而却，有“大浴池”，“宽阔的街道”，“路灯照明”，“完备的下水道设施”。
哈拉巴，摩享佐·达罗，两城市的人口各有3万多。

哈拉巴文化延续约6、7百年，但3750年前左右便突然消灭了。
这原因是，，，地震，泥石流，外族入侵，，，等，但是不明白。

距今，3500~3200前，雅利安人逐渐侵入到印度，征服了当地的居民。
随着，奴隶制度的发展和社会的分发，婆罗门教和种姓制度合在一起。
对这个社会制度，提出批评的是“释迦摩尼”。他成了大悟的“佛陀”，
走向世人传播他的新学说“佛教”。今天，它已成为世界大宗教之一。
经过，近千年发展形成一个新的印度文明。

我想，佛教是“人的精神面”的思想发现。
因为，世界三大文明都，总的是“物质文明”。人的历史上，开拓新的边界。

2021年6月28号
ba

iPadから送信